



■ 今年を振り返って 事務局長 田代 周

今年のカレンダーも最後の一枚になってしまいました。以前にも述べたことがあります、一年の長さは歳とともに早く感じるようになります。

今年もいろいろなことがありましたが、年の瀬になると毎年恒例のように今年の10大ニュースなるものが発表されます。12月になったばかりの現段階では何がそれに該当するのかわかりませんが、私なりに政治、経済、社会、学術、スポーツの分野に分けて今年を振り返ってみたいと思います。

▶ まず政治分野においては、昨年の衆院選に続き、今年夏の都議選、参院選と自民党は大敗し、国会では少数与党となった上、高市政権の誕生で長らく与党を組んでいた公明党が離脱し、維新の会が入れ替わり与党に加わりました。更に参院選では参政党の躍進で政界の色が変わったようです。

何色とは言えませんが、雰囲気はみなさんご理解いただけるものと思います。あいまいさを残して物事を進める場合、よく“政治的解決”なる言葉が使われますが、これからは白黒をはっきりつけた政治が進められるのではないかと感じています。

▶ 続いて経済分野での出来事ですが、トランプ関税に揺れた1年でした。

しかしここでは大阪万博に触れたいと思います。

開幕前には費用が嵩みすぎて「税金の無駄遣い」と万博開催に批判的な意見が出ていました。開幕直後は来場者が少なくこの先どうなるかとの心配もあったようですが、徐々に関心が高まり終わってみると黒字となったとのこと。「インバウンド」も「ミャクミャク」もこの黒字化に貢献したようです。

▶ 社会面で見ると、今年は国勢調査が行われました。正確な数字が出るのは先になりますが、日本人の平均年齢が40歳代最後の年となるようです。

戦後間もないころの日本人の平均年齢は21.3歳で日本が高度成長していたころは30歳前後でした。そして今年49.7歳となり、来年2026年には50歳代突入となる見込みです。

(引用: <https://world-guide.jp/countries/average-age/392>)

現在人口世界一のインドの平均年齢は28.8歳で日本の高度成長期と重なります。今後も発展が続き、日本のGDPもまもなく抜かれる見込みです。

若い力は国の発展に大きく寄与しますが、少子高齢化が進む日本では今後どのように国力を維持発展させるのか政治の力が求められます。

▶ 学術面でのトピックスといえば、ノーベル生理・医学賞に坂口志文氏、化学賞に北川進氏のダブル受賞です。ともに基礎研究に励まれての受賞でした。自身の研究が世の中でどのように役立つのかわからないことが多い基礎研究は、とすると挫折してしまうことがありますが、信念をもって研究を続けることにより、誰かがその活用を見出して大きな成果を生み出してくれます。もくもくと研究に励むことができる環境がこれからも求められています。

▶ スポーツの分野では様々なジャンルで多くの日本人が活躍していますが、この人が何といてもトップに挙げられるでしょう。大谷翔平選手です。

日本の誇りであり、野球に限らず、スポーツを愛する子供たちに多くの夢と希望を与えています。

来年もまたMVP、期待しましょう。



■ COP30（国連気候変動枠組条約第30回締約国会議）

COP30が11月にブラジルのアマゾン川河口に位置する都市ベレンで開催されました。アマゾン川流域には熱帯雨林が広がり、世界の酸素供給地ともなっています。この流域に広がる熱帯雨林の伐採が深刻な問題となっていますが、今年の会合では気候変動の課題や森林保全、そして森林と深い関連を持つ海の環境保全などいくつかのテーマで話し合いが持たれました。

議長国ブラジルが提案していた「脱化石燃料に向けた工程表の作成」は産油国などの反対もあって見送られましたが、“この世界”の主張は「減」ではなく「脱」化石燃料です。

エネルギーの大半を石油や天然ガスなどの化石燃料に依存する日本はこの提案には明確な賛同を示さなかったとのこと。日本は高度な脱炭素技術や高効率な燃焼システムでCO₂排出を抑える技術を保有しています。石炭火力発電でもこの技術を生かして途上国などへの技術支援も行っているところ。これは世界から一定の評価を得ているとはいえ、“この世界”の環境団体CANは「化石燃料の延命を図っている!」として今年も化石賞を日本に授与すると発表しました。

<https://www.can-japan.org/press-release-ja/4188>

世界で最大のCO₂排出国の中国にはこれが一度も贈られたことがないというダブルスタンダードな判定によるもので、自国のアピール力の差が現れているのかもしれません。

世界ではCO₂が地球温暖化の元凶ととらえており、日本やEUなど多くの国が2050年を目標にしてカーボン・ニュートラルを達成するべく努力することを宣言しています。

米国も同じ目標を持っていたはずですが、第2次トランプ大統領就任の日にパリ協定から再離脱を宣言したため来年1月20日に離脱発効となります。

今回のCOP30に政府関係者は参加しておらず、目標達成に向けて国としての取り組みはハテ？ となるのでしょうか。彼は9月の国連総会の場でこんなことを言っていたのだけれど・・・。



2025. 09. 23 国連本部一般討論演説

「国連は解決しないばかりか新たな問題を生み出している」
「気候対策は史上最大の詐欺」

■ ウクライナ出身力士「安青錦」大関に

2022年2月に始まったロシア・ウクライナ戦争は3年11か月も続いています。ウクライナの頭越しにトランプーチン間で和平への道すじ策を協議しているようです。ウクライナ国民はミサイルやドローンが飛んでくる毎日が一刻も早く終息することを願っているでしょうが、ゼレンスキー大統領にしてみると国土割譲条件などの話がちらつく中、気が気でないでしょう。国民にしても今までウクライナ語を話していたのに明日からはロシア語を話さなければならなくなるのではと考えたくないことです。

そこで思い出すのがフランスの作家アルフォンス・ドーデの「最後の授業」という小説です。

<https://www.riabou.net/entry/2019/01/01/223401>

言葉は文化であり、話す人々の心の拠り所です。

19世紀に起きていたことが21世紀にも繰り返されるようなことがあってはなりません。

話の前段が長くなりました。主題は安青錦です。

3年前のロシア侵攻で家族とともにドイツに逃げ、本人は相撲にあこがれて来日し相撲部屋の門を



たたいたとのこと。2023年9月の初土俵以来、毎場所好成績を残して一気に昇進してきました。

大型力士が多い角界で取り組む相手より小さく見える体格ですが、腕力は相当に強いのでしょう。九州場所での優勝、そして大関昇進は祖国の人たちへの大きな励みとなったに違いありません。

優勝インタビューで話していた日本語はまるでネイティブ。来場所以降の活躍も期待しています。

■ 活動報告

- ▶ 11月6日（木）円覚寺座禅・写経の会

<http://jvc-senior.com/page358.html>

- ▶ 11月25日（火）Online 会合

<http://jvc-senior.com/20251125online.pdf>

それぞれご確認ください。



■ 事務局から

- ▶ 12月6日（土）には「ブラ散歩高円寺」を実施します。忘年会も開催したいと考えています。事前の予約なしで当日12時に高円寺駅に直接お越しいただいてもかまいません。ふるってご参加ください。

- ▶ 冬ともなると毎年のようにインフルエンザがはやります。今年は特に猛威を振っているようです。年末、何かと慌ただしい時期です。ご自愛ください。

- ▶ 今年も皆様にはシニアクラブ活動にご理解・ご支援をいただきありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。

事務局長 田代 周